



まちなの史跡めぐり



国会図書館所蔵資料の閲覧
(7)

町文化財専門委員
石瀧 豊 美夫

国立国会図書館デジタルコレクションで、「糟屋郡須恵村」を検索した結果を報告します。今回は正月にふさわしい話題をと思い、少し方向を転じて「高場乱」で検索した結果を報告することにしました。355件もヒットしたのは驚きました。

高場乱の父正山は須恵の眼科医岡正節(藩医。高場から岡に姓を改める)の三男で、博多に移り眼科医を開業してました。その次女に生まれた乱は男装・帯刀して生涯を送り、眼科医であると同時に塾(興志塾)を開いて人材育成に努めま

した。塾があったのは博多の南に隣接する住吉村字人參畑(現在の福岡市博多区博多駅前四丁目)で、そのため乱は「人參畑のばあさん」「人參畑の先生」と呼ばれ、塾は「人參畑塾」という通称で親しまれました。自由民権運動の時期に、弟子が玄洋社を結成したことから「玄洋社生みの親」とも言われています。

昨年、福岡市博多区千代の崇福寺、玄洋社墓地の一角に高場乱の銅像(写真)が設置されました。墓地には高場乱の墓もあり、「高場先生之墓」という題字は勝海舟の書で、経歴

を記した裏面の墓誌には「先祖は須恵の人」という言葉も彫り込まれています。人參畑から須恵に往復する時には、牛に横座りしていたと言われ、そのポーズの肖像画も残されています。

信じ居たりけり。乱、二十四、五才の頃家塾を設け、多少の書生を養成しけるが、生来多病の爲め、頗る困難を極めけれど、病を強いて教授、感化懈らざりける。

島の刑を経て、辛ふじて頸の繋がれぬる浮浪の徒、慍悍の輩は、四方より寄り来り、端なく一の聖学を修業する梁山泊をぞ現はしける。

乱、平生教授の法は書に在らずして道に在り。虚文に非ずして実行に在りて、務めて道の大要を説き、細事を各各自の自ら修むるに任せけり。固より亀井の学派(旧藩校甘棠館長、亀井南冥の学派)なれば、教科の書印刻のものを用ゆる事なく(亀井南冥の著作は印刷を禁じられていた)、皆塾生に手写させ、朱子註など入り居るをば皆塗抹させ、更に己れの信ずる所を聴かせて真黒に書入れさせける。去れば読本は論語、周易等の外、僅かに史記、靖献遺言、三國志、水滸伝の類にて、主として敢為勇猛の氣象をぞ練らしめける。

明治六、七年の頃、乱は弥家塾を盛大にし、他県より遙々笈を負ふて門に臻る者さへ有るに至れり。此頃、人參畑の先生の名、漸く喧しく成行きけり。思ふに乱は筑前国那珂郡住吉村なる、福岡の市を去る半里許りの所、字人參畑と云ふ田畑の中に一軒家を構へ、開きたる事故、福岡の人は誰も高場乱の名を言ふ者なく、単に人參畑の先生とは称へけるなり。其頃、高場の塾生と云ふは、重もに旧藩の兵隊にして、箱田六助(六輔)が正しい(進藤喜平太、阿部武三郎、松井愚松浦が正しい)、宮川太一郎など云ふ、何れも剣氣胸臆に蟠り、腥血襟辺に鮮かなる猛者にして、或は人を殺し、或は家を焼き、入牢、遠

を記した裏面の墓誌には「先祖は須恵の人」という言葉も彫り込まれています。人參畑から須恵に往復する時には、牛に横座りしていたと言われ、そのポーズの肖像画も残されています。

島を巡り、辛ふじて頸の繋がれぬる浮浪の徒、慍悍の輩は、四方より寄り来り、端なく一の聖学を修業する梁山泊をぞ現はしける。

乱、平生教授の法は書に在らずして道に在り。虚文に非ずして実行に在りて、務めて道の大要を説き、細事を各各自の自ら修むるに任せけり。固より亀井の学派(旧藩校甘棠館長、亀井南冥の学派)なれば、教科の書印刻のものを用ゆる事なく(亀井南冥の著作は印刷を禁じられていた)、皆塾生に手写させ、朱子註など入り居るをば皆塗抹させ、更に己れの信ずる所を聴かせて真黒に書入れさせける。去れば読本は論語、周易等の外、僅かに史記、靖献遺言、三國志、水滸伝の類にて、主として敢為勇猛の氣象をぞ練らしめける。

明治十年西南戦争の際は、高場の塾生拳つて建部小四郎(武部が正しい)、越智彦四郎(越知が正しい)等の企に与みしたり(武部、越知はいずれも死刑にされた)。中には単身薩軍に投じたる者もありけり(後の衆議院議員、炭鉱業平岡浩太郎が該当する)。兵を起す迄は彼等人參畑の塾を以て集会所と

身で高場乱の弟子にあたる玄洋社の人たちとも交際し、長崎で「東洋日の出新聞」を発行していました。後に衆議院議員となりました。

く後図を慮りて物に逡巡(そうじゆん)の事なく、氣概一徹、直に万の障碍(こうざい)に衝(つ)きぬる風ありけり。(略)されど此人々の外に真丈夫(まごころ)の一人前の男性(おとこ)ならで、真(ま)すら武夫(ぶ)の振舞(ふるま)いを為し、如何にも土地の氣風を代表し、又此人々の中の或者に師匠と侍(さむらい)かれ、儀表(ぎひょう)と仰(おほ)がれぬる一奇代(いちかしろ)の傑物(たけもの)こそ有(あ)れ。其(その)人は人參畑(にんじんばた)の先生(せんせい)連(れん)、姓(せい)は高場(たかば)、名(な)は乱(らん)と云(い)ふ(一)女儒(にょにゅう)女性(にょせい)の儒学者(にゅうがくしや)なりけり。



高場乱銅像(福岡市博多区千代、崇福寺)